NPO法人 ネパール野球ラリグラスの会 会報誌

ラリグラス通信

2016年度号　2016年10月1日発行

2016年4月23日 ネパール復興支援野球大会

目次

・ネパール震災復興支援野球大会
・侍ジャパン公式サイト、コラム掲載
・ネパール防災スポーツ教室
・ネパール交流野球教室
・ネパールフェスティバル
・国際スポーツデー　シンポジウム
・ナインフォース
・イベント出展　　ほか

（右）最高殊勲選手　スシル・パリヤー君
（左）最優秀捕手　　サグン・キチャジュ君

野球から広がる笑顔の輪

ご挨拶

平素はラリグラスの会に温かいご支援を賜りましてありがとうございます。２０１６年度の「ラリグラス通信」を発行するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の４月にネパールで大地震が発生して以降、当会ではネパールの震災復興支援のために様々な活動を行ってまいりました。そして、その一環として、昨年１２月には「ネパール震災復興支援野球大会」の開催を予定しておりました。しかしながら、ネパールでの新憲法公布に関わる混乱で大会は延期を余儀なくされておりました。それが震災から１年後となる去る４月２３日から２５日に渡り開催することができました。開催までの経緯を隣のページにまとめてございますので、ご一読いただければと存じます。

また、野球大会の開催に至るまで、義援金や野球道具のご寄付等、多くの方々から賜りましたご支援に感謝申し上げます。本来であれば、支援者各位には早急に御礼申し上げるべきところではございましたが、震災後から現在に至るまで、あまりにも多くのお問い合せ等をいただいたため当方に大きな混乱が生じ、十分なご対応ができなかったことをお詫び申し上げます。

おかげさまで、復興支援野球大会は盛況のうちに無事終了することができました。参加した子どもたちは、笑顔一杯でグラウンドを駆け回っており、大変喜んでおりました。大会後、参加した子どもたちから「大会が目標になった。そのおかげで野球をすることで地震のつらさを忘れることができた。」との声が聞こえてきたのは、嬉しい限りです。

復興支援野球大会は終わりましたが、ネパールの復興への道はまだまだ続いており、現実は厳しいものがあります。報道だけでは伝えきれない問題もあり、中には精神的に不安定になる者もおります。そのような状況においては、物質的な支援もさることながら、被災者の心のケアといったことも大切だと思います。復興支援野球大会の大きな目的は、そういった精神的な支援にありました。そのような意味でも、ネパールの復興はまだまだ終わっていません。

当会は、今後も「協働」の理念のもと、活動に尽力してまいりたいと思います。今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

ＮＰＯ法人ネパール野球ラリグラスの会　理事長

小林 洋平

■「ネパール復興支援野球大会」開催までの経緯

地震発生前、当会では２０１５年４月２６日から重田大輝氏を現地野球指導員として派遣する予定で準備を進めており、派遣を翌日に控えた４月２５日には、神社で安全祈願を行いました。当会が地震の第一報を受けたのは神社を出たすぐ後でした。その後、徐々に現地では甚大な被害が出ていることが伝わってまいりました。このような状況の中、指導員の派遣も当面見合わせることといたしました。

地震発生から約１０日後、当会の小林理事長と鈴木事務局長はネパールへ赴き、カトマンズ、バクタプル、ポカラで現地調査を行いました。カトマンズ市内は、各所で建物の崩壊が見られ、多くの人がテント生活をしておりました。また、ポカラでは目立った被害はございませんでした。最も被害が大きかったのはバクタプルで、無傷な建物を探すのが難しい状況でございました。また、両名のネパール滞在中にも多数の余震が発生しておりました。

地震発生後、当会ではネパール復興支援のための募金活動を開始いたしました。現地調査を行う一方で、お預かりした募金の一部で、屋根に使うトタン板など緊急で必要な支援物資を購入し、バクタプルで被災した野球少年たちの家族などに手渡しました。

バクタプルで驚いたことは、被災した子どもたちが地震の２日後から野球の練習を再開していたことでした。現地では野球が子どもたちの心の支えとなっていました。そのような状況の中、現地からの要請も有り、１２月に「ネパール復興支援野球大会」を開催することといたしました。

「ネパール復興支援野球大会」の準備を進めている中、2015年９月にネパールで新憲法が公布されました。これに対し、反対派住民が様々な抗議活動を展開。その一環としてインドとの国境を封鎖しました。ネパールでは多くの物資をインドからの輸入に頼っているため、物資の不足から物価が高騰し、ネパールの市民生活が大混乱しました。このような状況の中で、日本大使館からの助言も有り、子どもたちを一カ所に集めて野球大会を開催することは困難であると判断し、大会の延期を決定いたしました。しかしながら、大会を楽しみにしていた野球少年たちのことを考え、１２月にバクタプルとパタンの親善試合を行うとともに、バクタプルの家庭や学校に冬を越すために必要な支援物資を手渡しました。

その後、２０１６年に入り、２月にインドとの国境封鎖が解除され、市民生活の混乱も徐々に収まってまいりました。当会では、復興支援野球大会の開催は可能と判断し、大会を震災から１年後にあたる４月２３日から２５日に開催することといたしました。それから、イッソー・タパ氏やネパール野球ソフトボール協会とも協力しながら大会の準備に奔走し、無事に大会を開催することができました。

■野球のオリンピック復帰

先日、野球のオリンピック復帰が決まりました。当会も微力ながら野球のオリンピック復帰に尽力してまいりましたので、大変嬉しく思います。ネパールは、去る８月２５日に発表された世界野球ソフトボール連盟のランキングで７１位（最下位）ではありますが、ネパールの野球関係者も新たな目標ができ、大変喜んでおります。

ミズノ様には、復興支援野球大会で使用したユニフォームパンツのご協力をいただきました。

特集

ネパール復興支援野球大会開催

当会では、昨年４月２５日の地震発生以来、様々なネパールへの復興支援活動を行ってまいりました。そして、その一環として、本年４月２３日から３日間に渡り、カトマンズにおいて「ネパール復興支援野球大会」を開催いたしました。この大会は当初、昨年１２月に開催する予定でしたが、昨年９月に交付されたネパールの新憲法に関わる混乱のため、延期を余儀なくされました。ここで、大会の様子をご紹介いたします。なお、この大会の模様は、日本とネパールのテレビや新聞でも多数紹介されております。

開催概要

■日程：２０１６年４月２３日から４月２５日
■場所：ネパール・カトマンズ　トゥンディケル広場
■主催：ＮＰＯ法人ネパール野球ラリグラスの会
　　ネパール野球ソフトボール協会
■参加チーム（総勢約８０名）
　（少年の部）
　　ポカラ・イエティーズ、カトマンズ・オールスターズ、
　　バクタプル・ライジングスターズＡ、バクタプル・ライジングスターズＢ
　（成年の部）
　　ポカラ・イエティーズ、武装警察（Armed Police Force：ＡＰＦ）

ポカラ
イエティーズ

バクタプル
ライジングスターズ

カトマンズ
オールスターズ

武装警察

■内容：
　４月２３日　開会式、少年の部３試合、親善試合１試合
　４月２４日　少年の部３試合
　４月２５日　審判講習会、成年の部１試合、親善試合１試合、閉会式

日本からの参加者

事業認定

ネパール復興支援野球大会は、以下の事業認定を受けております。

■外務省「日・ネパール外交関係樹立６０周年記念事業」

２０１６年は、日本とネパールの国交樹立６０周年にあたります。日本の外務省では，この記念すべき年を日本とネパールの間の幅広い交流の年にしていくため，それにふさわしい事業を募集し、「日・ネパール外交関係樹立６０周年記念事業」として認定しています。

■「Sport For Tomorrow」認定プログラム

「Sport For Tomorrow」は、２０２０年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京に招致する際、ＩＯＣ総会において安倍晋三首相が発表したことをきっかけに始まった日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業です。
２０１４年から２０２０年までの７年間で、開発途上国をはじめとする１００カ国以上・１０００万人以上を対象としたあらゆる世代の人々にスポーツの価値を広げていく取組みです。

大会の様子

■開会式

試合に先立ち、開会式が行われました。開会式には、駐ネパール大使の小川正史氏、駐ネパール大使館一等書記官の浜田清彦氏、ネパール野球ソフトボール協会会長のアシット・ラナ氏、エアアジア・ネパール社長のガネッシュ・ラマ氏のほか、ネパールスポーツ評議会、ネパール・オリンピック委員会、ＪＩＣＡネパール事務所などからのご臨席を賜りました。開会式では、来賓のご挨拶、国歌斉唱、バクタプル・ライジングスターズのサグン・キチャジュ君による選手宣誓が行われました。

小川正史 大使

選手たち

■試合（１日目）

１日目は、少年の部の３試合が行われました。第１試合の前には、小川大使が投手、ネパール野球ソフトボール協会のラナ会長が打者となり、始球式が行われました。

第１試合では、バクタプル・ライジングスターズＡチームとカトマンズ・オールスターズが対戦。バクタプルＡのサグン・キチャジュ君が先制の二塁打を放つなど、攻守にわたって活躍。バクタプルＡが勝利しました。

ネパール野球ソフトボール協会 ラナ会長（中央）

第２試合は、ポカラ・イェティーズ対バクタプル・ライジングスターズＢチームの対戦で、ポカラが大勝。ポカラは、２０１４年に「日本・ネパール野球交流プログラム2014」で来日したビカッシュ・ライ投手とスシル・パリヤー捕手がバッテリーを組みました。

バクタプルＡ 対 カトマンズ

バクタプルB 対 ポカラ

■トゥンディケル広場

大会会場となったトゥンディケル広場はカトマンズのスンダラ地区にある大きな広場で、主要なランドマークのひとつです。

地震発生後、トゥンディケル広場は、家を失いテント生活をしている人々であふれていました。ネパールの復興には、まだまだ長い時間が必要ですが、この場所でネパール復興支援野球大会が開催されたことは、復興が一歩ずつでも前へ進んでいることの象徴と言えるでしょう。

地震後のトゥンディケル広場

大会の様子

■試合（２日目）

２日目は、少年の部の２試合が行われました。第１試合では、バクタプル・ライジングスターズＢチームとカトマンズ・オールスターズが対戦。カトマンズ・オールスターズが勝利しました。バクタプルでは女子選手４名も出場しました。

第２試合は少年の部の決勝戦。ポカラ・イエティーズ対バクタプル・ライジングスターズＡチームが対戦。１０対０でポカラが勝利し、優勝しました。

ご寄付いただいた野球道具を贈呈
（写真の道具は、大阪府堺市の中もずシャークス様からのご寄付）

ポカラ 対 バクタプルＡ　（ファンケル様からご寄付いただいたボールも使われております。）

■試合（３日目）

第１試合では、武装警察チームの女子チームとポカラ・イエティーズの少年チームの親善試合が行われました。

第２試合は、成年の部の試合。武装警察チームとポカラ・イエティーズが対戦しました。この試合は、武装警察チームの猛打爆発。武装警察が１２対２で勝利しました。

ポカラ（少年） 対 武装警察・女子チーム
（日本大学硬式野球部様からご寄付いただいたボールも使われております）

ポカラ（成年） 対 武装警察
（ユニフォームは北海道栄高校様、ヘルメットはオリックス・バファローズ様からのご寄付）

交流活動

大会期間中、当会スタッフはカトマンズ近郊の野球チームや関係団体を訪問し、交流を深めました。

ネパール野球ソフトボール協会

ゴルカクルー（パタン）
（ユニフォームは、東京都立川市、レッドキャップス様からのご寄付）

武装警察

大会の様子

■審判講習会

３日目の試合に先立ち、審判講習会が行われました。講師は、スジーワ・ウィジャヤナーヤカ氏（アジア野球連盟）、下地和巳氏（海老名市野球協会）、アミラ・パラティピヤ氏（スリランカ野球ソフトボール協会）、アビシェック・カリキ氏（ネパール野球連盟）の４名が務めました。
講習会には、約５０名の選手が参加し、「アウト」、「セーフ」などのコールの練習をしたり、主審をするときの注意点を勉強しました。また、この講習会の模様はアジア野球連盟のホームページでも紹介されました。

スジーワ・ウィジャヤナーヤカ氏による指導

審判団

■閉会式

ネパールスポーツ評議会の役員ほかのご臨席を賜り、閉会式を行いました。閉会式では、表彰式も行われ、以下の表彰を行いました。

■少年の部
優勝　　ポカラ・イエティーズ
準優勝　バクタプル・ライジングスターズＡ

■成年の部
優勝　　武装警察

■最高殊勲選手
スシル・パリヤー（ポカラ）

■ベストナイン
投　手：ビカシュ・ライ（ポカラ）
捕　手：サグン・キチャジュ（バクタプルA）
一塁手：アムリット・ネパーリー（ポカラ）
二塁手：マニシュ・チャカツ（バクタプルA）
三塁手：アルジュン・グルン（カトマンズ）
遊撃手：スザン・グルン（ポカラ）
外野手：プラディープ・パウデル（バクタプル）
外野手：ビジャン・ケーシー（ポカラ）
外野手：パワン・ブダトキ（ポカラ）

ポカラ・イエティーズ（少年）
ユニフォームは桜井谷東ウインズ様からのご寄付

バクタプル・ライジングスターズＡ

武装警察
NPO法人ベースボール長野様からご寄付いただいた野球道具を使用しております。

※今回の大会には他にも多くの個人・団体様から野球道具のご寄付をいただいております。ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。

■参加者の感想

この大会に参加できて、とても嬉しかったです。みんなが頑張ったのが良かったです。これからも野球を続けて行きたいです。そして、オリンピックにも参加したいです。
（バクタプルＡ：
サグン・キチャジュ君）

大変素晴らしい大会でした。私も審判としてこの大会に参加できたことを嬉しく思います。大会の開催にご尽力いただいたラリグラスの会と支援者の皆様に感謝します。
（審判員：アビシェック・カリキ氏）

侍ジャパン 公式ウェブサイト

当会では、昨年４月より、野球日本代表「侍ジャパン」の公式ウェブサイト内のコラム「世界の野球」において「ヒマラヤを北に臨む国ネパールの野球」と題したネパール野球を紹介する記事を執筆させていただいております（不定期更新）。ここに、コラムの中から２つの記事を紹介させていただきます。

第15回（2016年８月22日掲載）

「東北楽天イーグルスのネパール支援」

楽天の秋田佳紀コーチ（左）とイッソー・タパ氏（右）

去る6月10日、私とネパール野球代表主将のイッソー・タパ氏は、楽天イーグルスの球団事務所を訪れた。楽天イーグルスには昨年のネパールの震災に対し多くのご支援をいただいており、今回の訪問の目的は、その支援活動に対する御礼と報告を行うことであった。

ラリグラスの会は数年前から、楽天イーグルスとの関わりを持っており、2014年にネパールの少年野球チームが日本を訪れた際には、ネパールの少年たちもコボスタ宮城を訪れ、野球教室で元選手から指導を受けたり試合観戦を行っている。また、楽天イーグルスの本拠地である仙台は、2011年の東日本大震災で大きな被害を受けた。同球団の関係者や地元のファンは、震災被災地の苦難を身をもって経験している。そんな背景が、楽天イーグルスのネパール震災復興支援活動につながっている。

昨年、ネパールで地震が発生した後の楽天イーグルスの対応は早かった。地震が発生した4月25日の直後、4月29日と30日には二軍、5月1日と2日には一軍の主催試合でネパール震災復興支援のための募金活動を行ない、監督・コーチ・選手・スタッフの他、ネパール人留学生も参加してファンの皆様に支援を呼びかけた。また、試合前には黙祷も行われた。球団の呼びかけには、多くのファンの方々が応えていただき、集まった募金の総額は約150万円にも達した。集められた募金は、ラリグラスの会がお預かりし、支援物資の購入やネパール復興支援野球大会の開催経費に充てられた。

楽天イーグルスの相田健太郎氏は言う。「東北で震災を経験した球団として、微力ながらネパールの皆さまに協力したいと考え、募金活動を実施しました。私たちの力は小さいものかもしれませんが、小さな力でも、みんなの力を合わせて、大きな力にしていきたいです。」

東日本大震災では楽天イーグルスを始め、プロ野球は野球を通して被災者を支援し、勇気づけてきた。それは、今回のネパールの震災でラリグラスの会が野球を通した復興支援活動を行ってきたことにも通じているし、野球を通じて多くの方々から支援を受けることができた。楽天イーグルスの球団関係者ならびにファンの皆様には、重ねて感謝申し上げたい。

楽天イーグルスの球団事務所にて

2014年、ネパールの少年野球チームが楽天イーグルスを訪問

第13回（2016年5月19日掲載）

「被災地の野球事務所に見た信念」

「ネパール震災復興支援野球大会」大会期間中の4月24日、大会に参加していたバクタプル・ベースボール・クラブの事務所の開所式が行われ、ラリグラスの会のメンバーも参加した。

初めて見たバクタプルの事務所は、大変立派なものだった。室内には事務机がひとつ置かれている他、棚には野球道具がきちんと整理されており、壁に はユニフォームやポスターなども飾られていた。バクタプルは、当会が関係している野球の拠点の中で最も地震の被害が大きかった地域である。家が全半壊した 選手もおり、地震直後の5月上旬に当会スタッフが現地を訪れた際には、壊れていない建物を探す方が難しかった。

当会では、この1年間、支援物資を届けるなどの支援を行ってきた。バクタプルの事務所も地震で壊れた建物を修理したものである。屋根には当会が支 援物資として提供したトタン板が使われていた。地震で大きな被害を受けた建物がこんなに立派な野球事務所となったことに、大変驚かされた。

バクタプル・ベースボール・クラブのリーダーはローシャン・タパ氏である。彼は昨年6月に中国のMLB開発センターで指導者の訓練を受けた人物でもある（第3回「ネパール野球の有望株」参照）。以前にも述べたが、MLB開発センターでの訓練に関しては、当時は地震の直後ということで、中国へ行くのは困難かと思われた。しかし彼は「MLB中 国での訓練は大きなチャンスである。このような時だからこそ、今、頑張らなければならない。家が壊れたからといって下を向いていても何も変わらない。子供 たちのため、バクタプルのため、ネパールのため、是非行かせて欲しい。」と訴えた。困難なときだからこそ、野球を続けることで、その困難に打ち勝つという 強い信念を見せた。

今回、新しく出来た事務所を見て、彼がネパールの野球発展を真剣に考えていることを改めて認識させられた。そんな強い信念を持ったリーダーのも と、1年前、バクタプルの野球少年たちは地震の2日後から練習を再開した。その後もMLB開発センターで訓練を受けたローシャン・タパ氏が選手たちを引っ 張り、復興支援野球大会を目標にして練習する中で選手たちの絆が深まって行き、素晴らしいチームが出来上がった。そして、大会では選手たちが元気一杯のプ レーを見せてくれた。そんな姿を見ていると、この1年間、自分はネパールの人たちを何とか励まそうと様々な活動を行ってきたが、むしろ自分の方が励まされ た感じだった。

ローシャン・タパ氏は言う「この野球事務所を作ることができたのは、ラリグラスの会や支援者の皆さんのおかげです。だから、ラリグラスの会の皆さんにはぜひ開所式に来て欲しかったです。これからも、ネパール野球発展のため共に頑張りましょう。」

ここ数年、バクタプル以外にも、数カ所で野球チームが出来始めている。各チームでは、それぞれ強い信念を持ったリーダーがチームを引っ張っている。今後も、こういった強い信念を持った人物が増えることを望んでいる。

地震直後の壊れた建物

左の写真の建物を修理して野球事務所を作る

野球事務所の開所式

ネパール防災スポーツ教室

経緯・概要

日本国政府が推進するスポーツによる国際貢献活動である「Sport For Tomorrow」の一環として、Ｊリーグが中心となり、ＦＣ東京バレーボール部、一般財団法人日本国際協力システムおよび当会が参画し、２０１６年２月３日から２月７日に渡り、カトマンズおよび近隣地域において、スポーツ教室およびスポーツを通じた防災教室等のイベントが開催されました。このイベントは、震災からの復興途上にあるネパールの子供たちをスポーツのチカラで勇気づけることを目的として開催されました。

参加した日本の競技団体のメンバー

■イベントの概要

（１）スポーツ教室

日本からサッカー、野球、バレーボールの競技団体がネパールに赴き、カトマンズで３競技合同スポーツ教室を行いました。また、競技別のチーム（サッカーは２チーム）に分かれ、各チームがそれぞれ幾つかの学校を訪れ、各競技のスポーツ教室を行いました。

（２）スポーツを通した防災教育

スポーツ教室で訪れた学校で防災意識を啓蒙する活動を行いました。準備運動で防災体操を行うとともに、継続的な防災意識の向上を目的として、防災教育のためのポスターを学校や教育機関に配布、掲示いたしました。

防災ポスター

■当会の取り組み

野球の競技団体として参画し、カトマンズとバクタプルの学校において野球教室を行いました。なお、当会からは以下の７名が参加いたしました。

小林洋平（当会理事長）、鈴木秀利（当会事務局長）、色川冬馬（パキスタン代表監督）、重田大輝（当会野球指導員）、徳中優俊（当会野球指導員）、西尾匠（当会野球指導員）、ガネッシュ・ラマ

Youtubeで今回のイベントの動画がご覧いただけます。
https://youtu.be/4KRip1BXeww

イベントの様子

５日間の日程で毎日１校ずつを訪問いたしました。そのうち３日間は各競技団体それぞれ別々の学校で、残りの２日間は３競技合同でのイベントを行いました。当会の担当である野球教室には、５日間合計で約１５００人の子どもたちが参加いたしました。

各回のイベントでは、開会式の後、準備体操として「防災体操」を行いました。防災体操は防災の知恵をテーマとした体操で、体操の中に災害発生時に役立つ動きが取り入れられています。

防災体操

野球道具の説明

今回の野球教室では、野球に触れたことのない子どもたちがほとんどでしたので、まず始めに野球道具の説明を行い、それからキャッチボールを行いました。なお、今回の野球教室では安全面を考慮し、ボールやバットはプラスチック製のものを使用しました。

キャッチボールの後は、参加者を数組に分けて、それぞれ「バッティング」、「的当てゲーム」、「フライの捕球」、「ベースランニング」といったメニューを順次交代で行いました。

野球教室は１回２時間でしたが、子どもたちは大いに野球を楽しんだ様子で、参加した子どもたちからは、「もっとやりたい」、「ネパールでも野球が盛んになれば嬉しい」といった声も上がっていました。

参加した子供たち

的当てゲーム

ネパール交流野球教室 in 東京

近年、日本に住むネパール人が増加しております（２０１６年末で約５万５千人）。この現状に鑑み、当会では、ネパール野球発展のためには日本に住むネパール人に野球を普及させることも効果的であると考え、そのための活動を進めております。その一環として、２０１６年５月２８日に東京のネパール人学校「エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン」（以下、ＥＩＳＪ）の生徒を対象に野球教室を開催いたしました。

ＥＩＳＪは２０１３年に東京の阿佐ヶ谷で設立された日本初のネパール人学校です。現在は、保育園児と小学生を合わせて、１００人以上の生徒が学んでいます。当会は、昨年から同校との交流を続けており、昨年４月にも今回と同様の野球教室を計画しておりましたが、前回は雨天でグラウンドが使えず、やむなく室内での活動となりました。

以下、イベントの概要と当日の活動の様子について、ご紹介いたします。当会では、今後もこの活動を継続していく予定です。

イベント概要

■日時　２０１６年５月２８日（土） 14:00 - 16:00
■会場　新小岩公園（東京都葛飾区西新小岩１-１-３）
■参加者
・エベレスト・インターナショナル・スクール　生徒・教職員
・ネパール野球ラリグラスの会　指導員・スタッフ
・その他、ボランティアの皆様
■内容
ルールの説明、キャッチボール、バッティグ等、野球の基本的な内容での子どもたちとの交流。
■事業認定
「Sport for Tomorrow」認定プログラム

活動の様子

参加したＥＩＳＪの生徒たち

当日は、ＥＩＳＪから生徒・教職員が合わせて３０名以上参加した他、生徒のご父兄も多数お見えになっていました。

野球教室に先立ち、開会式が行われました。開会式にはネパール臨時代理大使のガヘンドラ・ラジバンダリ氏、東京都議の舟坂ちかお氏、葛飾区議の米山真吾氏ほかのご臨席を賜り、ご挨拶を頂戴いたしました。

野球教室では、まずランニングと準備体操でウォーミングアップを行い、その後、キャッチボールやバッティング等、野球の基本的な内容を行いました。なお、今回は、野球を初めてする生徒がほとんどでしたので、安全面を考慮し、ボールやバットはプラスチック製のものを使用しました。

参加者の感想

「野球は生徒たちにとって全く新しいスポーツです。生徒たちが本当に野球を楽しんでいたので大変嬉しかったです。これを切っ掛けに、生徒が野球に興味を持ってくれたら嬉しいし、父兄とも協力して、練習する機会を与えたいです。生徒たちのためにこのイベントを開催していただいてラリグラスの会に感謝します。今後もぜひ開催していただきたいです。」

ＥＩＳＪ校長　プラディープ・タパ氏

プラディープ・タパ校長（左から２番目）
ガヘンドラ・ラジバンダリ臨時代理大使（右から３番目）

ネパールフェスティバル2016

８月６日と７日の２日間、東京の代々木公園で「ネパールフェスティバル2016」が開催されました。来場者は２日間で２０万人を数え、盛大なイベントとなりました。このフェスティバルは日本に住んでいるネパール人の手によって毎年行われているイベントで、今年で９回目になります。

フェスティバルでは、始めに開会式が行われました。開会式では、日本とネパールの交流に貢献している個人・団体に対し、海外在住ネパール人協会日本支部からの表彰が行われ、当会も表彰を受けました。

表彰式

表彰状

スポーツ国際デー シンポジウム

国連では、４月６日を「開発と平和のためのスポーツ国際デー」に定めております。これを記念して、去る４月６日に立命館大学（京都市）において、日本政府が推進するスポーツによる国際貢献事業「Sport For Tomorrow」の事務局である独立行政法人日本スポーツ振興センターの主催により「第２回開発と平和のためのスポーツ国際デー」記念シンポジウムが開催されました。同シンポジウムには当会理事長の小林洋平もパネルディスカッションのパネラーとして参加いたしました。

開催概要

■日時：２０１６年４月６日　１７:００-１９:４５
■場所：立命館大学　朱雀キャンパス
　　（京都市中京区西ノ京朱雀町１）
■主催：独立行政法人日本スポーツ振興センター
■共催：外務省、スポーツ庁、（独）国際協力機構、国際交流基金、（公財）日本オリンピック委員会、（公財）日本障がい者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会、（公財）日本アンチドーピング機構、筑波大学、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、一般財団法人ピースボールアクション、立命館大学、ＮＰＯ法人AS.Laranja
■後援：（特活）関西ＮＧＯ協議会、国連広報センター
■参加者数：約３００名

チャリティー・キックベース

スポーツ国際デーのシンポジウムでFeuradefegoの大野丈様とお会いしたのがきっかけとなり、６月１８日に大阪城公園野球場で熊本地震とネパール地震のチャリティー・キックベースが開催されました。Feuradefegoはスポーツを通じて人々の楔になることを目的としている団体です。

今回のイベントで集まった寄付金は、熊本のサッカークラブおよびＮＰＯ法人ネパール野球ラリグラスの会に寄付されました。

ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

報告者：西尾匠（ネパール野球ラリグラスの会）

ナインフォース

2016年１月１日、当会は奈良県内を中心に活動している社会人硬式野球チーム「NineForce（ナインフォース）」を傘下に組み入れ、当会の日本国内での野球普及活動を充実させることになりました。
以下、ナインフォースについてご紹介いたします。

チーム概要

【チーム名】　Nine Force （ナインフォース）
【チーム代表】　藤森 稔人
【主将】　山脇 佑介
【活動拠点】　奈良県山辺郡山添村
【活動コンセプト】　「硬式をしたい・挑戦したい人に、その環境を提供する」
【公式ホームページ】　http://www.9force.net/

ナインフォースは、２０１０年に滋賀県を中心に活動するチームとして、硬式野球に挑戦したいというメンバーを中心に発足しました。その後は活動の中心を奈良県に移し、奈良県野球連盟への加盟を目標に活動しています。

活動の様子

同志社大学との合同練習

練習や試合といった活動だけでなく、最近では、以下のような野球を通じた様々な社会貢献活動にも力を入れています。

■当会との協力による国際協力活動
■山添村と提携した地域貢献活動
■奈良県で活動する知的障がい者ソフトボールチーム「ぐれいとぶっだ」との交流活動
■他チームとの合同練習、大会参加

ネパール交流野球教室 in 東京

「ぐれいとぶっだ」との交流

山添村・神野山つつじまつり

イッソー・タパ投手

本年２月、当会の公認パートナーであり、ネパール代表チーム主将、元０６ブルズ投手のイッソー・タパ選手がナインフォースに入団いたしました。

選手・スタッフ募集中

ナインフォースでは、選手・スタッフを募集しています。募集要項等、詳細はナインフォースの公式ホームページをご覧ください。

イベント出展

当会では、さまざまなイベント出展も行っております。その中から、最近出展したイベントをご紹介いたします。

ネパール復興支援フェスタ

アジア友好ネットワーク、国際交流団体未来、ネパール・ヨードを支える会、とともにネパール復興支援のためのイベントを開催しました。イベントでは講演会、パネルディスカッションやシンガーソングライターの佐野碧さんのライブなどが行われました。
（4月16日）

パネルディスカッション

佐野碧さん

関西ネパールフェスティバル

ネパールの震災復興を後押しするため、アジア女性自立プロジェクトが主催したイベントです。
（1月23日）

会場の様子

ワンワールドフェスティバル

今回で１０回目となったワンワールドフェスティバルへの出展。今回は、ナインフォースの皆さんが中心となって出展をいたしました。（2月6・7日）

ラリグラスの会のブース

Facebookページ

当会ではFacebookページを運用しております。Facebookページを通じて当会の活動に関する情報をタイムリーにお知らせいたします。ここで、最近の投稿を紹介いたします。

ラリグラスの会のFacebookページに「いいね」しよう。

https://www.facebook.com/nepalbaseball1999/

ラリグラスＦＢ

■2016年8月30日の投稿から

ナマステ！　第７代野球指導員の重田大輝です。
ネパールのバクタプルにある“ライジングスターズ”の練習に行きました！
学生団体LUCKYに所属している、元近江高校野球部の藤原康太郎君が初参加してくれ、ノックなど打ってくれました！
以下、彼の感想です！

「子供たちに野球が好きか？と質問した時に“大好き！”と笑顔で答えてくれたことに大きな喜びを感じました。ちゃんとした設備もグランドもないけれど、世 界のどこにいても白球を追う球児の輝きは変わらないんだなと感じさせられました。本当に貴重な経験ができたことに心から感謝したいと思ってます。」
グラウンドは時期的に草が生い茂っており、とても大変でしたが、みんな熱心に練習していました！ネパール野球を、今後とも応援のほどよろしくお願い致します！！

2017年度会員様募集

野球から広がる笑顔の輪

2016年2月5日 Shree Deep Sarshowoti School

あなたも一緒にネパールを応援しませんか。

会員募集要項

当会は１９９９年から活動を始め、今年で１８年目になります。
当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。

■年会費：
（一般会員）１口 6,000円、（賛助会員）１口 3,000円、（法人会員）50,000円

■会費納入方法：
下記の口座に振り込み
【銀行】三菱東京ＵＦＪ銀行　城東支店　普通口座 0187650
【郵便振替】口座番号 00950-8-165088
ＮＰＯ法人 ネパール野球ラリグラスの会

ネパール震災復興の義援金も受け付けております。

■会員有効期間：2017年1月1日から2017年12月31日まで

■会員特典：
ネパール雑貨進呈（一般会員）、会報の送付、
イベントのご案内など

２０１６年８月１５日より下記の住所に事務所を移転いたしました。

〒536-0016
大阪市城東区蒲生１丁目１０−５F−ＣＵＢＥビル　２０２号

＊１階はオールドGYMさんです。

（交通）大阪環状線　京橋駅　徒歩４分
京阪電鉄　京橋駅　徒歩５分

編集・発行：ＮＰＯ法人 ネパール野球ラリグラスの会
〒536-0016　大阪市城東区蒲生１丁目１０−５　Ｆ−ＣＵＢＥビル ２０２号
http://www.nepalbaseball.net/ E-mail: info@nepalbaseball.net